

中田 國太郎 選 投稿数15首

喜びも辛き思ひの繰り言も受け入れられる我が日記帳  
 (評) 店頭に多種多様な日記帳が並ぶ季節になった。来年まではと決意を固めた人も多いと思う。そこで、日記について考えをめぐらすことも大いに意味がある。作者は、人生の喜び以上に辛い事の「繰り言」を日記に書き込み、慰めを求めて生きていくと言う。人生の悲しみのカタルシスを日記に求めていることに共感を覚えた。結婚式で感じたことを言。それは、依万智が詠んだ「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさの大切さを痛感した。真下作、「われに叶わぬ」に哀愁が漂う。野口作、稲の生命力の強さに感嘆。金子作、猫と人間との違いの視点がおもしろい。

広報の写真をルーペでたしかめつつわれに叶わぬ金婚を祝ぐ 三沢 眞下 杏子  
 霜月も中旬なれど暖かく稲の切り株早苗のごとし 皆野 野口 貞子  
 背伸びして玄関の戸を開ける猫閉めるを知らぬ人との違い 皆野 金子善次郎  
 孫がみな私の背丈を追い越して可愛い時代が遠く懐かし 皆野 新井 茂  
 干し柿になれぬ柿の実落つるまま軒先の陽ははや傾きぬ 三沢 新井 民子  
 朝露にきらめき凜と咲き誇るつわぶき清し秋はたけなわ 皆野 新井 愛子  
 現代のネット依存症結婚の詐欺殺人の因を辞めず 上日野沢 四方田利男  
 寒暖の激しき日々に戸惑ひつ四方の山並彩うつりゆく 金崎 山田 雅子  
 友の作見事な出来よ文化祭筆の動きに心引くなり 三沢 横田 龍雲  
 坪庭の花のスペース広くして亡母に供げたく今朝も水やる 金崎 浅見富美子  
 しっかりと抱き合ふ親子運よくて船の事故より生還嬉し 皆野 塩田 千代  
 あき箱に笑んだ無花果子にもらいあく取りながら時かけジャムに 三沢 鈴木 キク

引間 豊作 選 投稿数21句

朝戸繰る眼に石路の花あかり 下日野沢 引間富美子  
 (評) つわは暖地の海辺に自生するが、庭園などにも植えられ、秋より冬にかけて黄色い頭状花をつける。作者は寝起きの眼に花あかりと詠んでいる。「茶の句に」ちまちまとした海もちぬ石路の花」がある。望洋とした海でさえ群れ咲く石路の花の前には、小さいと謳われてしまう。朝戸繰るがこの句を支えている。猪垣の句、猪の出没は奥秩父のことと思われていたが、何と近頃は我が家の裏畑まで来ている。昔は山と畑の境でお引取り願ったが、これからはどうなるのか気にかかる。

杉山のへりに猪垣積みし跡 三沢 新井 民子 山の家無人となりぬ鳥もみじ  
 群青の空にまぶしき柿の彩 皆野 関根 助市 天を突く龍勢見事秋祭  
 脱げやすくなりし帽子や木の葉髪 皆野 新井 茂 白息の御神馬囃す夜の祭り  
 雨あとの沢音高き良夜かな 下日野 中田 久恵 ベランダの盛り黄菊に言の葉を  
 三沢 眞下 杏子 三沢 鈴木 キク  
 落鮎やいくとせぶりに美濃路ゆく 小春日や縁に茶話弾みけり  
 下日野沢 浅見 好一 皆野 根岸 詩子  
 秋作の収穫急し日暮れ道 車窓より首かしげ見る十三夜  
 上日野沢 小林つね子 下日野沢 梅津 トク

**俳句・短歌を募集**  
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。  
 8日必着 1人1句、1首に限ります。

「日本年金機構」が来年1月1日からスタート!

国民の皆さまの信頼に応え、一層のサービス向上の実現を目指し、社会保険庁は組織・人員を一新し、「日本年金機構」として生まれ変わります。

- 現在あるお近くの社会保険事務所は、新たに「年金事務所」と名称が変わりますが、年金相談などの窓口として引き続きご利用いただけます。また、「年金事務所」は、現在ある社会保険事務所の建物をそのまま使用しますので、所在地に変更はありません。
- 日本年金機構の設立に伴い、これまで社会保険庁や社会保険事務所の名義でご案内していた各種の関係書類は、内容により、今後は厚生労働省または日本年金機構の名義でご案内させていただくこととなりますが、国民の皆様方に何らかの手続きをさせていただくことは一切ございませんので、ご安心ください。
- 日本年金機構は、社会保険庁から公的年金の運営業務を引き継いで行うこととなりますが、公的年金制度は、国の制度として、その財政や運営に国が引き続き責任を持つことについては、これまでと変わりません。

北朝鮮人権侵害問題啓発週間

12月10日(木)～16日(水)

北朝鮮による拉致問題の解決のためには、「拉致は許さない」という皆さん一人ひとりの声が大きな力となります。

この週を機に、拉致問題に対する関心と認識を一層高めていただくようお願いいたします。